

2018 年を振り返って

今年は、地震、豪雨、酷暑に続き台風 21 号、24 号が日本列島を直撃し、各地に大きな被害をもたらしました。改めて自然の力、天災の恐ろしさを感じるとともに、災害対策、危機管理強化の必要性を考えさせられた年でした。

こうした中で、当院は、3 月に慢性期病床 50 床を回復期リハビリテーション病床に転換し、全病床（180 床）を回復期リハビリテーション病床としました。これにより、当院は文字通り回復期の患者様をリハビリテーションで支える病院として新たな一歩を踏み出しました。180 床の回復期リハビリテーション病院は県内にも例がなく、それだけに地域医療に果たすべき役割、責務の大きさを感じています。

また、昨年 10 月にスタートさせた「腰痛サポートダイヤル」も皆様に好評をいただいております。青いサポートカーもすっかりおなじみになりました。これからも腰痛でお困りの方がおられましたら、まず琵琶湖中央病院の腰痛サポートダイヤルにご連絡ください。私たちは当院の使命をより一層認識し、皆様のご期待に応えられるようより良質な医療、リハビリの提供を目指してさらに力強く歩みを進めてまいります。

とはいえ、当院の力だけではできることは限られています。このため、院内の地域研修センターにおいて、定期的に地域の医師、看護師、薬剤師、セラピストをはじめとする医療・介護スタッフと勉強や情報交換をする場（「BRIDGE セミナー」、「近江高齢者医療を考える会」等）を設けています。多職種からいろいろな意見が聞け、患者様により良いサービスを提供するヒントが発見できることも多々あります。地域医療・リハビリの充実、発展のため、関係の機関、職種が専門分野でより一層連携していけたらと考えています。皆様のご参加をお待ちしています。

さらに、今年は、4 月に浅田朋彦医師を神経内科部長として、また 7 月には伊藤隆洋医師を神経内科常勤医員として迎え、これにより当院はリハビリテーション科、神経内科、循環器内科、整形外科、脳神経外科の各科にわたり専門医を擁する病院となりました。関係医療機関の先生方におかれましては、当院医師とより一層ご交誼を賜り、ご指導の下にその使命を果たしていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、新年の干支は「己亥（つちのとい）」です。「己は草木が成長を終えて姿が整った状態」、亥は「草花が枯れ落ち、種の中にエネルギーがこもっている状態」を表すため、内部の充実を図って基盤を固め、次のステージに向けて準備をする年と言われていています。当院はまさに今、そのような状況の中を進んでいます。新年は新生琵琶湖中央病院の姿を具現化し、2020 年に向かって飛躍する基盤をつくる年と位置付けていますので、関係機関ならびに各位には引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この一年のご支援、ご愛顧に厚くお礼申し上げますとともに、新年が皆様にとりまして、幸多い充実した年となりますようお祈りし、年末のご挨拶とさせていただきます。

事務部長 森永寛司



年末年始の外来診療について

12 月 29 日（土）午後～1 月 3 日（木）

は休診とさせていただきます

御不便をおかけしますがご了承下さい。

